

令和7年度戴帽式 校長のことば

令和8年3月16日（月）

本日、ここに戴帽生をお祝すべく、お世話になりました実習病院の関係者の方々、保護者の皆様のご臨席のもと、埼玉県立常盤高等学校第54回戴帽式を挙行できますことは、本校職員一同この上のない喜びでございます。戴帽生の皆さん、本当におめでとうございます

皆さんが看護師になるという志を持って、常盤高校に入学して、およそ3年が経ちます

日々努力を積みあげ、仲間と切磋琢磨（せっさたくま）しながら、栄えある戴帽式を迎えることができました。皆さんのこれまでの努力、未来を見据えた姿勢に改めて心から敬意を表します

戴帽式は、皆さんが看護の基礎的な学びを終え、その成果を振り返り、看護の道を目指す者としての姿勢を改めて自分自身に問い直す機会となる大変重要な儀式です。

皆さんは白衣に身を包み、一人ひとりがナースキャップを戴き、ナイチンゲールから授けられた灯火（ともしび）を手に誓いを立てました

ナースキャップの白は、「純潔（じゅんけつ）、博愛（はくあい）、高貴（こうき）」を表しています。

キャンドルの灯火（ともしび）はナイチンゲールがクリミア戦争の際にテントの病室を燭台（しょくだい）の灯りで、一つ一つ巡視したことに基づいています。ともに看護の精神を象徴・継承するものです。

先ほどの「戴帽生のことば」から、皆さんが看護師になるという志を更に確固としたこと、今後に向け、更なる学びを決意したことを確信しました

今、私は皆さんのことばを聞き、胸が熱くなるとともに、同じ場所で同じ時間を共有していることが光栄です。

ここで皆さんに近代看護の祖といわれるフローレンス・ナイチンゲールの言葉を贈ります。

「世の中で看護の仕事ほど『自分がどのような人間であるか』にかかっている職はないのです」

今後の高度な医療開発やDXの進展に伴い、皆さんは新しい知識や技術を学ばなければなりません。また「看護は人なり 心なり」の言葉が示すとおり、豊かな人間性や優しさを身に付けること、倫理観や自律性、節度や節制、向上心や強い意思なども持ち続けなければなりません。常に現状に満足をせず、自分がどんな人間なのか見つめ、目的を高く掲げ、自分自身を高めてほしいと願っています。

そして、仲間と共に友情を育（はぐく）んでください。

ここで、保護者の皆様に申し上げます。お子様が晴れて、戴帽式を迎えることができましたこと、心よりお慶び申し上げます。本当におめでとうございます。

一人ひとりが本日の誓いの重さを十分に噛み締め、今後も夢に向かって成長していけますよう、職員一同、全力で教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆様におかれましても、引き続き本校の教育活動に対しまして、暖かなご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、戴帽生の皆さんの今後の学校生活が一層充実したものとなりますよう深く祈念して、校長のことばといたします。

令和8年3月16日

埼玉県立常盤高等学校長 鴨志田 新一